

Enterprise Vault™ Discovery Accelerator インストールガイド

12.3

Enterprise Vault™ Discovery Accelerator インストールガイド

最終更新日: 2018-03-09。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の **Web** サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、**Veritas Quick Assist (VQA)** ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は **Veritas** サポート **Web** サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは **Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	Discovery Accelerator の概要	6
	Discovery Accelerator の主な機能	6
	Discovery Accelerator のコンポーネントについて	6
	製品のマニュアル	7
	Veritas サポート Web サイトのホワイトペーパー	8
	Discovery Accelerator トレーニングモジュール	9
第 2 章	Discovery Accelerator のインストール準備	10
	Discovery Accelerator の設定オプション	10
	Discovery Accelerator の大規模なインストールの設定	11
	小規模なインストールの Discovery Accelerator 設定	12
	Discovery Accelerator 環境でサポートされる Enterprise Vault のバージョン	12
	Discovery Accelerator の前提条件	13
	SQL Server コンピュータの前提条件	13
	Discovery Accelerator サーバーコンピュータの前提条件	14
	Enterprise Vault サーバーコンピュータの前提条件	17
	Discovery Accelerator クライアントコンピュータの前提条件	17
	多くの添付ファイルまたは多くの受信者を含むアイテムの処理を有効にするための Outlook の設定	18
	Windows および ASP.NET 一時フォルダ権限の設定	19
	一時フォルダのセキュリティの必要条件	20
	一時フォルダへのユーザーとグループのアクセス権の追加	21
	Discovery Accelerator 環境を中断できるネットワーク機能の無効化	22
	Discovery Accelerator サーバー上の Windows Search サービスの無効化	22
	Windows Server サービスが Discovery Accelerator サーバーで実行していることの確認	23
	SQL Server エージェントサービスの設定	23
	ボルトサービスアカウントへの SQL Server ロールの割り当て	24
	Enterprise Vault による配布リスト展開の確認	26

第 3 章	Discovery Accelerator のインストール	28
	Discovery Accelerator サーバーソフトウェアのインストール	28
	Enterprise Vault で Windows のファイアウォールを通した Discovery Accelerator への通信を許可する	30
	設定データベースとカスタマーデータベースの作成	30
	カスタディアンマネージャ Web サイトの設定	38
	Discovery Accelerator レポートテンプレートのアップロード	41
	SQL Server AlwaysOn 環境で使うための Discovery Accelerator の設定	44
	クラスタ環境への Discovery Accelerator のインストール	46
	Discovery Accelerator データベースのセキュリティの最大化	47
	Discovery Accelerator クライアントソフトウェアのインストール	47
	Discovery Accelerator クライアントの設定ファイルの修正	47
	MSI インストーラパッケージを使った Discovery Accelerator クライアントのインストール	48
付録 A	Discovery Accelerator が使用するポート	50
	Discovery Accelerator のデフォルトのポート	50
	Discovery Accelerator が使用するポートの変更	51
付録 B	トラブルシューティング	54
	Discovery Accelerator 12.3 にアップグレードするときにイベントログにエラーメッセージが表示される	54
	Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスが作成されない	55
	Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスが起動しない	56
	UAC が有効なコンピュータで顧客データベースを作成しようとするときに「アクセスが拒否されました」メッセージが表示される	56
	Symantec Endpoint Protection が実行されている場合は Discovery Accelerator カスタマーデータベースを作成またはアップグレードできない	56
	UAC が有効なコンピュータから Discovery Accelerator クライアントをアンインストールする場合に権限エラーが発生する	57
	Discovery Accelerator クライアントを共有の場所からアンインストールした場合に他のユーザーがクライアントを起動できないことがある	58

Discovery Accelerator の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator の主な機能](#)
- [Discovery Accelerator のコンポーネントについて](#)
- [製品のマニュアル](#)

Discovery Accelerator の主な機能

Discovery Accelerator は、Enterprise Vault のサービスやアーカイブと統合された、開示とレビューを行う電子システムです。Discovery Accelerator は、主任弁護士の調査や法廷で必要な提出物を迅速に費用対効果の高い方法で用意するために、電子メール、文書、その他の電子的なアイテムを検索し、取り込み、保存し、分析し、レビューし、マーク付けし、エクスポートまたは生成する権限をユーザーに与えることができます。

大量のアイテムのレビューを法律の専門家や外部の弁護団に依頼すると、非常にコストがかかります。Discovery Accelerator を使うと、1 つの開示処理またはケースにレビューアの階層を作成し、レビューアのレベルごとに特定のレビューマークを割り当てることができます。この方法を使えば、弁護士補助のスタッフや法律専門以外のスタッフが検索結果や収集結果の初期レビューを行うことができ、特別なアイテム、関連するアイテム、問題のあるアイテムのみを弁護士に任せることができます。その後、必要に応じて関連するアイテムに適切な通し番号を生成するか、または単に Discovery Accelerator からこれらのアイテムを各種の形式でエクスポートできます。

Discovery Accelerator のコンポーネントについて

Discovery Accelerator の主なコンポーネントを表 1-1 に示します。

表 1-1 Discovery Accelerator のコンポーネント

コンポーネント	メモ
Discovery Accelerator クライアント	クライアントは、Discovery Accelerator の管理者がシステムの設定と管理を行い、レビューアがアイテムにアクセスしてマーク付けする場合に使われます。
Accelerator マネージャ Web サイト	この Web サイトでは、データを格納する複数の Discovery Accelerator データベースの設定を行うことができます。
Enterprise Vault Accelerator マネージャサービス	このサービスは、Discovery Accelerator クライアントからの要求を処理し、Enterprise Vault コンポーネントと連動してアーカイブへのアクセスや検索などを実行します。
カスタマーデータベース	カスタマーデータベースは、ケースの詳細、ユーザーロール、検索結果、レビューマーク、タグなどを Discovery Accelerator が格納する SQL データベースです。 複数のカスタマーデータベースを設定できます。
設定データベース	設定データベースは、カスタマーデータベースの場所を指定し、使用する SQL Server、データベースファイル、ログファイルの詳細を格納する SQL データベースです。
カストディアンマネージャ Web サイト(オプション)	この Web サイトでは、Discovery Accelerator で検索するカストディアン(個々の従業員)とカストディアングループの詳細を格納できます。カストディアングループは、Windows グループまたは Domino グループと配布リスト、Active Directory 検索または Domino LDAP 検索、Active Directory コンテナなどの従業員の任意の集まりです。
Discovery Accelerator API Web サイト(オプション)	この Web サイトでは、Discovery Accelerator API を使って他社のツールとソフトウェアを統合し、データを Discovery Accelerator カスタマーデータベースから取り込んだり、カスタマーデータベースにエクスポートしたりすることができます。 Discovery Accelerator API について詳しくは Veritas 社のサポートにお問い合わせください。

製品のマニュアル

表 1-2 に、Discovery Accelerator に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-2 Discovery Accelerator のマニュアルセット

マニュアル	コメント
インストールガイド	Discovery Accelerator サーバーソフトウェアとクライアントソフトウェアの初回インストールを実行する方法について説明します。
アップグレードの手順	インストールされている既存の Discovery Accelerator をアップグレードする方法について説明します。
管理者ガイド	ロールの設定と割り当て、レビューセットに追加するアイテムの検索、オフラインレビューのためのアイテムのエクスポート、レポートの作成などの方法について、Discovery Accelerator の管理者に情報を提供します。
レビューアガイド	レビューアが利用可能な Discovery Accelerator クライアントの機能について説明します。
ヘルプ	Discovery Accelerator のすべてのアプリケーションに付属し、それらの機能を使う方法の広範な情報を提供します。
リリースノート	Discovery Accelerator をインストールして使う前に注意する必要がある最新情報について説明しています。
ベストプラクティス	Discovery Accelerator の最適な計画と実装を行う方法に関する広範な情報を提供します。このマニュアルを入手するには、Veritas サポート Web サイトの次のページを参照してください。 https://www.veritas.com/docs/100024378

Veritas サポート Web サイトのホワイトペーパー

Veritas サポート Web サイトの次のホワイトペーパーには、このガイドで説明する機能の詳細が記載されています。

表 1-3 Veritas サポート Web サイトのホワイトペーパー

ホワイトペーパー	説明
Accelerator Deduplication	Discovery Accelerator の重複排除機能
Effective Searching	Discovery Accelerator で検索を実行する方法
Effective Reviewing	Discovery Accelerator レビューアが利用できる機能およびツール
Best Practices for Enhanced Accelerator Reporting	OData (Open Data) プロトコルを使用して Discovery Accelerator レポートを作成する方法

Discovery Accelerator トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Discovery Accelerator の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Discovery Accelerator トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

Discovery Accelerator のインストール準備

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator の設定オプション](#)
- [Discovery Accelerator 環境でサポートされる Enterprise Vault のバージョン](#)
- [Discovery Accelerator の前提条件](#)
- [多くの添付ファイルまたは多くの受信者を含むアイテムの処理を有効にするための Outlook の設定](#)
- [Windows および ASP.NET 一時フォルダ権限の設定](#)
- [一時フォルダのセキュリティの必要条件](#)
- [Discovery Accelerator 環境を中断できるネットワーク機能の無効化](#)
- [Discovery Accelerator サーバー上の Windows Search サービスの無効化](#)
- [Windows Server サービスが Discovery Accelerator サーバーで実行していることの確認](#)
- [SQL Server エージェントサービスの設定](#)
- [ボルトサービスアカウントへの SQL Server ロールの割り当て](#)
- [Enterprise Vault による配布リスト展開の確認](#)

Discovery Accelerator の設定オプション

Discovery Accelerator はクライアント/サーバーアプリケーションです。クライアントソフトウェアは Windows ワークステーションで実行され、サーバーソフトウェアは Windows

サーバーで実行されます。最適なパフォーマンスのために、通常の Enterprise Vault サーバーではなく、専用コンピュータにサーバーソフトウェアをインストールすることを推奨します。SQL Server コンピュータには、すべての設定情報とカスタマー情報が格納されています。

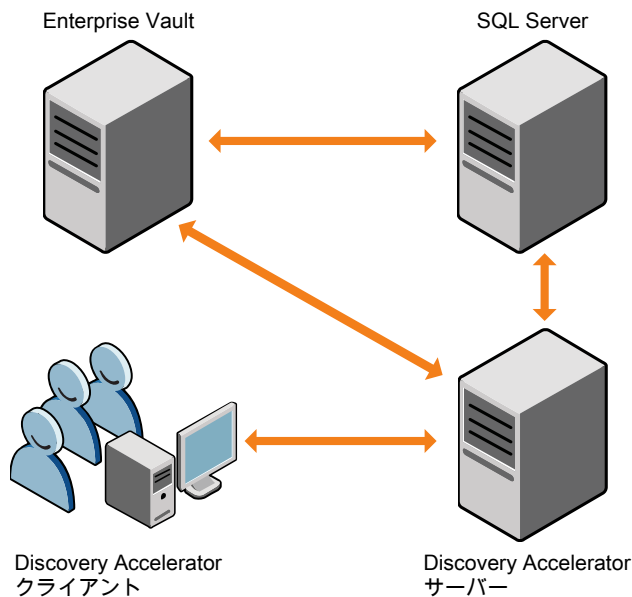
複数の設定オプションから選択できます。以下の説明と計画している設定が異なり、Discovery Accelerator コンピュータの設定内容が不明な場合は、シマンテック社に連絡してください。

Discovery Accelerator の大規模なインストールの設定

SQL Server コンピュータとは別のコンピュータに Discovery Accelerator の自己完結型インストールを行うと、Discovery Accelerator の集中検索とエクスポート実行による Enterprise Vault インストールへの影響を最小限に抑えることができます。一般に、この設定は大規模なインストールに適しています。

Discovery Accelerator コンピュータは Enterprise Vault サーバーと同じドメインか、または信頼できるドメインに存在している必要があります。

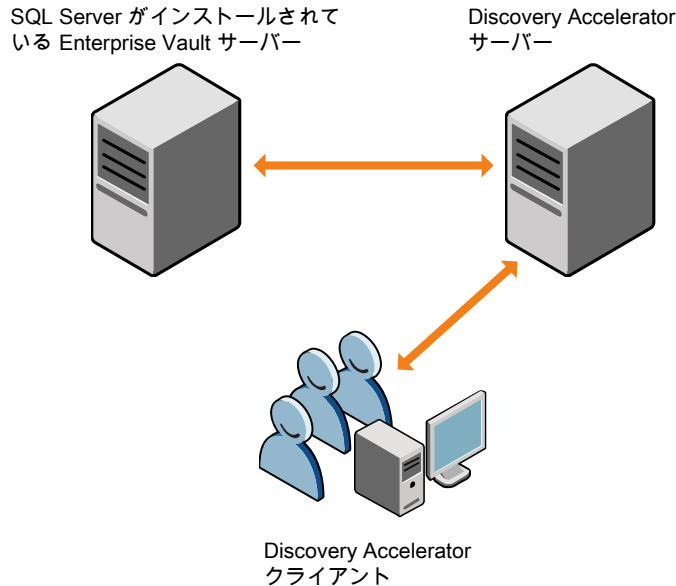
図 2-1 大規模なインストールの設定



小規模なインストールの Discovery Accelerator 設定

小規模なインストールの設定と大規模なインストールの設定の違いは、小規模なインストールでは Enterprise Vault と SQL Server が同じコンピュータにあるということだけです。

図 2-2 小規模なインストールの設定



テストを目的として、同じコンピュータで Discovery Accelerator、SQL Server と Enterprise Vault を実行できます。

Discovery Accelerator 環境でサポートされる Enterprise Vault のバージョン

少なくとも、次のいずれかの 11.0.1 以降のバージョンを Discovery Accelerator サーバーにインストールする必要があります。

- Enterprise Vault のサービス
- Enterprise Vault の API ランタイム

次の重要な点に注意してください。

- Discovery Accelerator 環境のすべての Enterprise Vault サイトのすべての Enterprise Vault サーバーで、同じバージョンの Enterprise Vault が実行されている必要があります。

たとえば、2 つの Enterprise Vault がインストールされている Discovery Accelerator を使う場合、一方のサイトで Enterprise Vault 11.0.1 を実行し、もう一方で Enterprise Vault 12 を実行することはできません。

- Discovery Accelerator と Enterprise Vault の両方をアップグレードする場合、最初に Discovery Accelerator をアップグレードし、次にすべての Enterprise Vault サーバー上の Enterprise Vault をアップグレードし、最後にすべての Discovery Accelerator サーバー上の Enterprise Vault をアップグレードします。

Enterprise Vault のサポート対象バージョンについて詳しくは、[Compatibility Charts](#) を参照してください。

Discovery Accelerator の前提条件

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、Enterprise Vault [Compatibility Charts](#) を参照してください。

SQL Server コンピュータの前提条件

SQL Server コンピュータで次のいずれかを実行している必要があります。

- SQL Server 2012 x64 Edition、最初のリリース以降
- SQL Server 2014 x64 Edition、最初のリリース以降
- SQL Server 2016 x64 Edition、最初のリリース以降
- SQL Server 2017 x64 Edition、最初のリリース

メモ: SQL Server のインストールのソート順序または照合では、Enterprise Vault のインストールと一致させるために大文字と小文字が区別されない点に注意してください。大文字と小文字が区別されるインストールはサポートされません。

Discovery Accelerator は、SQL Server AlwaysOn 可用性グループとフェールオーバークラスティンスタンスを実装して高可用性とディザスタリカバリを実現できます。

- **AlwaysOn** 可用性グループ機能はデータベースレベルで可用性を最大化します。高可用性グループは、一緒にフェールオーバーするユーザーデータベース(可用性データベース)の個々のセットにフェールオーバー環境を提供します。
- **AlwaysOn** フェールオーバークラスティンスタンス機能は、インスタンス(フェールオーバークラスターインスタンス(FCI))全体に可用性を提供します。ネットワーク上では FCI は単一のコンピュータで実行している SQL Server のインスタンスのように見えますが、ノードから別のノードにフェールオーバーします。

これらの AlwaysOn 機能を使うにはどちらの場合も、Windows Server フェールオーバークラスティングノードに SQL Server インスタンスが常駐している必要があります。

AlwaysOn 環境に Discovery Accelerator を配備している場合に最良の結果を得るには、次のことを確認することを推奨します。

- AlwaysOn 可用性グループの可用性レプリカをホストするすべてのサーバーインスタンスが同じ SQL Server 照合順序を使っている。詳しくは Microsoft 社の次の記事を参照してください。
<https://msdn.microsoft.com/library/ff878487.aspx>
- Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを実行するアカウント(通常はボルトサービスアカウント)の場合は、可用性レプリカをホストするすべてのサーバーインスタンスで同じログインを作成している。詳しくは Microsoft 社の次の記事を参照してください。
<https://msdn.microsoft.com/hh270282.aspx>
非包含可用性データベースでは、可用性レプリカをホストするサーバーインスタンスで明示的にログインを作成する必要があります。
- すべての可用性レプリカに同じサービスマスターキーがある。それには、プライマリレプリカのサービスマスターキーをバックアップファイルにエクスポートして、そのキーを各セカンダリレプリカにインポートします。これらの活動を実行する方法に関しては、次の Microsoft 社の記事を参照してください。
<https://msdn.microsoft.com/library/ms190337.aspx>
<https://msdn.microsoft.com/library/ms187972.aspx>

Discovery Accelerator サーバーコンピュータの前提条件

表 2-1 に、Discovery Accelerator サーバーソフトウェアを実行するコンピュータにインストールして設定する必要があるソフトウェアを示します。

表 2-1 Discovery Accelerator サーバーのインストールに必要なソフトウェア

項目	メモ
.NET Framework	.NET Framework 4.5.2 が必要です。 配布メディアの Links To Related Software フォルダを参照してください。

項目	メモ
Enterprise Vault	<p>Discovery Accelerator を Enterprise Vault とは別のコンピュータにインストールする場合、Enterprise Vault ソフトウェアを Discovery Accelerator コンピュータにインストールする必要があります。</p> <p>少なくとも、次のいずれかの 11.0.1 以降のバージョンが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Enterprise Vault サービス ■ Enterprise Vault API ランタイム <p>p.12 の「Discovery Accelerator 環境でサポートされる Enterprise Vault のバージョン」を参照してください。</p> <p>Discovery Accelerator サーバーコンピュータにインストールした Enterprise Vault を設定する必要はありません。Enterprise Vault の設定ウィザードを実行しないでください。また、Enterprise Vault 管理者サービスが Discovery Accelerator サーバーコンピュータで実行されている場合は、停止して、起動タイプを[無効]に設定することをお勧めします。</p> <p>Discovery Accelerator でコンテンツを検索するには、Enterprise Vault アーカイブのインデックスをフルに設定します。</p>
IIS (Internet Information Services)	<p>IIS 7.5 以降 (ASP.NET、IIS 6.0 管理互換、Windows 認証を用いる)が必要です。</p>
Notes クライアント	<p>クライアントユーザーが Domino のアイテムをエクスポートできるようにするには、バージョン 8.5.3 以降の Notes クライアントが必要です。</p> <p>Accelerator マネージャサービスの実行アカウントを使って、シングルユーザーモードでクライアントをインストールします。</p>
Outlook	<p>クライアントユーザーが PST 形式の Exchange サーバーのアイテムをエクスポートしたり、元のバージョンのアイテムをダウンロードするには Outlook 2013 が必要です。PST にエクスポートする機能には、32 ビット版 Outlook 2013 が必要です。64 ビット版には対応していません。</p> <p>Discovery Accelerator サーバーのレジストリに AttachmentMax および RecipientMax 値を追加して、多数の添付ファイルまたは多数の受信者が設定されたアイテムを処理する際の問題を回避します。</p> <p>p.18 の「多くの添付ファイルまたは多くの受信者を含むアイテムの処理を有効にするための Outlook の設定」を参照してください。</p>
Visual C++ 再頒布可能パッケージ	<p>次の両方が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ (x86). ■ Microsoft Visual C++ 2013 再頒布可能パッケージ (x86) <p>Visual C++ 2008 SP1 パッケージのインストールファイルは、配布メディアの Links to related software フォルダにあります。</p>

項目	メモ
Web ブラウザ	<p>次のいずれかが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Microsoft Edge。■ Internet Explorer 9 から 11。 <p>最適な結果のために、次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ cookie を許可するようにブラウザのプライバシー設定を設定します。■ ポップアップブロックをオフにします。■ 詳細オプション[Web ページのアニメーションを再生する]が選択されていることを確認します。 <p>Internet Explorer で、ツールメニューの[インターネットオプション]をクリックします。それから、[詳細設定]タブの[マルチメディア]カテゴリで目的のオプションを見つけます。</p>
Windows	<p>次のいずれかが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows Server 2012 オリジナルリリースまたは R2■ Windows Server 2016 オリジナルリリース <p>次のことを実行することを推奨します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールする前に、Windows サーバーサービスを実行していることを確認します。 p.23 の「Windows Server サービスが Discovery Accelerator サーバーで実行していることの確認」を参照してください。■ Discovery Accelerator のエクスポート処理に干渉しないように、Windows Search サービスを無効にして停止します。 p.22 の「Discovery Accelerator サーバー上の Windows Search サービスの無効化」を参照してください。

最良の結果を得るには、次のものを備えたコンピュータに Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールすることを推奨します。

- 少なくとも 4 GB のメモリ。
- 予想される検索とエクスポートの実行に対応するための十分なハードディスク容量。
Discovery Accelerator クライアントから Enterprise Vault および Discovery Accelerator サーバーへのトランザクション要求はすべて、一時ストレージ用にボルトサービスアカウントの Temp フォルダを使用します。したがって、Discovery Accelerator の大規模な検索およびエクスポートを実行するには、このフォルダに十分な空き容量を確保する必要があります。Discovery Accelerator サーバーおよび Enterprise Vault サーバー両方に対して、ボルトサービスアカウントの Temp フォルダがあるドライブには少なくとも 40 GB の空き容量が必要です。ただし、推奨空き容量は 80 GB です。

ボルトサービスアカウントの **Temp** フォルダをウイルススキャンの対象から除外します。

- 複数のハードディスクドライブ。たとえば、オペレーティングシステムにはドライブ **C**、CD/DVD ドライブにはドライブ **D**、ボルトサービスアカウントの **Temp** フォルダにはドライブ **E**、エクスポートの出力フォルダにはドライブ **F** を使う場合があります。また、Windows ページングファイルをドライブ **E** と **F** にまたがって分割することがあります。

『ベストプラクティスガイド』では、Discovery Accelerator サーバーのハードウェア要件に関する広範な情報が提供されます。このマニュアルは Veritas のサポート Web サイト (<https://www.veritas.com/docs/100024378>) から入手できます。

Enterprise Vault サーバーコンピュータの前提条件

Discovery Accelerator クライアント ユーザーによる SMTP (.eml) アイテムの PST 形式でのエクスポートを有効にする場合、Enterprise Vault に Outlook 2013 が必要です。PST にエクスポートする機能には、32 ビット版 Outlook 2013 が必要です。64 ビット版では働きません。

アーカイブ済みアイテムを管理するストレージサービスが別の Enterprise Vault サーバー上でホストされている場合、そのサーバーに Outlook をインストールする必要があります。

Discovery Accelerator クライアントコンピュータの前提条件

表 2-2 に、Discovery Accelerator クライアントソフトウェアを実行するコンピュータにインストールして設定する必要があるソフトウェアを示します。

表 2-2 Discovery Accelerator クライアントのインストールに必要なソフトウェア

アイテム	メモ
.NET Framework	.NET Framework 4.5.2 が必要です。 配布メディアの Links To Related Software フォルダを参照してください。
Notes クライアント	Domino のアイテムを HTML ではなく元の形式で表示するにはバージョン 8.5.3 以降の Notes クライアントが必要です。シングルユーザーモードでクライアントをインストールします。
Outlook	Exchange サーバーのアイテムを HTML ではなく、元の形式で表示するには次のいずれかが必要です。 <ul style="list-style-type: none">■ Outlook 2010。■ Outlook 2013。

アイテム	メモ
Visual C++ 再頒布可能パッケージ	<p>Domino アイテムを HTML ではなく元の形式で表示する場合は次の両方が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ (x86)■ Microsoft Visual C++ 2013 再頒布可能パッケージ (x86) <p>Visual C++ 2008 SP1 パッケージのインストールファイルは、配布メディアの Links to related software フォルダにあります。</p>
Web ブラウザ	<p>次のいずれかが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Microsoft Edge。■ Internet Explorer 9 から 11。
Windows	<p>次のいずれかが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows 7 の最初のリリースまたは SP1。■ Windows 8 または 8.1。■ Windows 10。 <p>Windows 8/8.1/10 コンピュータでの最適なパフォーマンスのために、クライアントを Windows 7 または Windows XP の互換性モードで実行します。これを行う方法のガイドラインについては、Windows のマニュアルを参照してください。</p>

Discovery Accelerator クライアントの推奨の画面解像度は 1024×768 以上です。最適な結果を得るには、クライアントコンピュータに少なくとも 2 GB のメモリがあることを確認してください。

多くの添付ファイルまたは多くの受信者を含むアイテムの処理を有効にするための Outlook の設定

クライアントユーザーが PST 形式の Exchange Server のアイテムをエクスポートしたり、アイテムの元のバージョンをダウンロードできるように、Discovery Accelerator サーバーにサポートされているバージョンの Outlook をインストールする必要があります。

p.14 の「[Discovery Accelerator サーバーコンピュータの前提条件](#)」を参照してください。

デフォルトでは、2048 を超える添付ファイルまたは受信者を含むアイテムは Outlook では開くことができません。クライアントユーザーが多数の添付ファイルまたは受信者を含むアイテムをエクスポートまたはダウンロードしようとする際の問題を回避するために、Discovery Accelerator サーバーにレジストリ値 AttachmentMax および RecipientMax を設定します。

多くの添付ファイルまたは多くの受信者を含むアイテムの処理を有効にするように Outlook を設定する方法

- 1 Discovery Accelerator サーバーで、レジストリエディタを起動します。
 - 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ポリシーを使わない場合は、次のレジストリサブキーを検索してクリックします。
`HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Microsoft¥Office¥version¥Outlook¥Options¥Mail`
 - ポリシーを使う場合は、次のレジストリサブキーを検索してクリックします。
`HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Policies¥Microsoft¥Office¥version¥Outlook¥Options¥Mail`
- ここで、*version* は、Outlook 2013 の場合は 15.0、Outlook 2016 の場合は 16.0 です。
- 3 [編集]メニューの[新規]をポイントし、[DWORD 値]をクリックします。
 - 4 AttachmentMax と入力し、Enter キーを押します。
 - 5 AttachmentMax を右クリックし、[修正]をクリックします。
 - 6 [データ値]フィールドに、必要な値を入力し、[OK]をクリックします。
推奨値は 16 進数の FFFFFFFF です。
 - 7 手順 3 から 6 を繰り返し、RecipientMax レジストリエントリを追加します。
 - 8 レジストリエディタを終了します。

Windows および ASP.NET 一時フォルダ権限の設定

ユーザーが Accelerator マネージャサイトのような Discovery Accelerator Web サイトにアクセスすることを可能にするには、Authenticated Users グループに次のフォルダのフルコントロール権限があることを確認してください。

- Discovery Accelerator サーバーの Windows 一時フォルダ。通常、このフォルダは `%windir%¥Temp` です。
- IIS コンピュータの ASP.NET 一時フォルダ。通常、このフォルダは次の場所にあります。
`%windir%¥Microsoft.NET¥Framework¥version¥Temporary ASP.NET Files`
64 ビット版の Windows には次の ASP.NET 一時フォルダもあります。
`%windir%¥Microsoft.NET¥Framework64¥version¥Temporary ASP.NET Files`

一時フォルダ権限を設定する方法

- 1 Windows エクスプローラで、権限を変更するフォルダを右クリックしてから、[プロパティ]をクリックします。
- 2 [セキュリティ]タブをクリックします。
- 3 [Authenticated Users]を追加し、[フルコントロール]にチェックマークを付けます。
- 4 [詳細設定]をクリックします。
- 5 [詳細セキュリティ設定]ダイアログボックスで、[継承の有効化]をクリックします。

一時フォルダのセキュリティの必要条件

メモ: Veritas サポート Web サイトの次の記事は、このセキュリティの必要条件に関する総合的な情報を提供します。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100014060

Discovery Accelerator サーバーとクライアントコンピュータの両方で、一時的に格納するため、Discovery Accelerator ではさまざまなフォルダを臨時で使用します。重要なデータを含んでいる可能性があるこれらのフォルダへの無断アクセスから保護するため、Discovery Accelerator は起動時とそれ以降定期的にアクセスをチェックします。セキュリティチェックが Discovery Accelerator サーバーで失敗すると、Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスが停止し、エラーイベントが Veritas Enterprise Vault イベントログに記録されます。セキュリティチェックが Discovery Accelerator クライアントコンピュータで失敗すると、ユーザーはチェックを再実行するか、クライアントを閉じるかを選択する必要があります。

サーバーコンピュータで、Discovery Accelerator はこれらのフォルダのセキュリティをチェックします。

- Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを実行しているユーザーの一時フォルダ。
- Discovery Accelerator クライアントのレビューの設定オプションで「ECM 一時ストレージ領域」として指定するフォルダ。デフォルトで、このフォルダは Windows の %TEMP% フォルダです。
- Discovery Accelerator クライアントの API の設定オプションで「一時ストレージ領域」として指定するフォルダ。デフォルトでは、このフォルダも Windows の %TEMP% フォルダです。

クライアントコンピュータで、Discovery Accelerator はクライアントを実行しているユーザーに属する一時フォルダのセキュリティをチェックします。

いずれの場合も、Discovery Accelerator では次のユーザーが権限があるユーザーとみなされます。

- 組み込みグループの Administrators、Backup Operators、Domain Administrators、System Operators のメンバー
- 一時フォルダが属するユーザー
- ローカルシステムアカウント

一時フォルダへのユーザーとグループのアクセス権の追加

Discovery Accelerator サーバーとクライアントコンピュータの両方で、レジストリエントリを設定して、セキュリティチェックから選択したユーザーまたはグループを除外する、またはチェックをすべてオフにすることができます。

レジストリエントリを使用してセキュリティチェックを設定する方法

- 1 レジストリエントリを設定する Discovery Accelerator サーバーまたはクライアントコンピュータで、レジストリエディタを開きます。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - サーバーコンピュータで、次のサブキーを参照します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥KVS
 - クライアントコンピュータで、次のサブキーを参照します。
HKEY_CURRENT_USER¥Software¥KVS
このサブキーがない場合、それを作成する必要があります。これは通常、ユーザー別のインストールではなく、マシン別に Discovery Accelerator をインストールした場合です。
- 3 次のレジストリエントリの 1 つを設定します。

TempFolderExceptions 文字列。1 つ以上のユーザーまたはグループの名前を指定し、セキュリティチェックから除外します。資格情報を **domain ¥ user_name** の形式で、または組み込みユーザーの場合、**BUILTIN ¥ user_name** を入力し、セミコロンで分割します。次に例を示します。

OurDomain¥Marie.Lopez;BUILTIN¥Server Operators

SkipTempFolderCheck DWORD。セキュリティチェック (0、デフォルト) を実行するか、オフにするか (1) 指定します。

- 4 サーバーコンピュータでレジストリエントリを設定したら、Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを再起動します。クライアントコンピュータで設定した場合はクライアントを再起動します。

Discovery Accelerator 環境を中断できるネットワーク機能の無効化

Windows ネットワークサブシステムでは、Discovery Accelerator 環境で問題を引き起こす可能性がある多数の機能が提供されています。これらの機能は無効にすることを推奨します。

Discovery Accelerator 環境を中断する可能性のあるネットワーク機能は無効にする方法

- 1 指定の Discovery Accelerator サーバー、Enterprise Vault サーバーと Enterprise Vault のデータベースをホストするすべての SQL Server の次の機能は無効にしてください。
 - 受信側のスケーリング
 - TCP Chimney
 - TCP セグメンテーションオフロード
 - TCP/IP オフロードエンジン

Veritas サポート Web サイトの次の記事に、これらの機能は無効にする方法が記載されています。

<https://www.veritas.com/docs/100019120>

- 2 Enterprise Vault サーバーと Discovery Accelerator サーバーに存在する可能性のあるネットワークインターフェースカード (NIC) チューニングを無効にします。

NIC チューニングを無効にする方法については、ハードウェアベンダーが提供するマニュアルを参照してください。

Discovery Accelerator サーバー上の Windows Search サービスの無効化

Windows Search サービスが Discovery Accelerator サーバー上で実行されている場合、Discovery Accelerator でオフラインレビューのためのアイテムのエクスポートが実行されなくなることがあります。したがって、Veritas サポート Web サイトにある次の記事の説明に従って、サービスを無効にすることを推奨します。

<https://www.veritas.com/docs/100028814>

サービス全体を無効にすることも、インデックスから選択したフォルダ (Windows の一時フォルダ、Discovery Accelerator のエクスポートフォルダなど) を除外することでサービスを部分的に無効にすることもできます。

Windows Server サービスが Discovery Accelerator サーバーで実行していることの確認

Discovery Accelerator サーバーソフトウェアのインストールプログラムを実行するときに、「サービスとしてログオン」のようないくつかのユーザー権限が Vault Service アカウントに割り当てられます。インストールプログラムはこれらの権限を割り当ててのちに Windows Server サービスを使います。このため、インストールプログラムを実行する前に、Server サービスが有効になっていて指定された Discovery Accelerator サーバーで実行していることを確認することが重要です。

Windows Server サービスが Discovery Accelerator サーバーで実行していることを確認するには

- 1 Discovery Accelerator サーバーで、[コントロール パネル]の[管理ツール]アプレットをダブルクリックします。
- 2 [サービス]をダブルクリックします。
- 3 まだ実行されていない場合は、Server サービスを開始します。

SQL Server エージェントサービスの設定

Discovery Accelerator の機能を使うと、アイテムの反復検索または今後の検索を実行するスケジュールを作成できます。これらのスケジュールは SQL Server エージェントジョブであるため、SQL Server エージェントサービスが SQL Server コンピュータで実行されていることを確認する必要があります。

また、Discovery Accelerator の分析機能を使って自動的にアイテムにマーク付けまたはタグ付けを行う場合、SQL Server エージェントサービスが実行されていることを確認する必要があります。これらの機能について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

SQL Server コンピュータの起動時に自動的に起動されるように SQL Server エージェントサービスを設定することを推奨します。

SQL Server エージェントサービスの自動起動を設定する方法

- 1 SQL Server コンピュータの[コントロール パネル]で[管理ツール]アプレットをダブルクリックします。
- 2 [サービス]をダブルクリックします。
- 3 [SQL Server Agent]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 4 スタートアップの種類を[自動]に変更し、[OK]をクリックします。

ボルトサービスアカウントへの SQL Server ロールの割り当て

ボルトサービスアカウントは、Enterprise Vault のサービスとタスクが Enterprise Vault データベースにアクセスするときに使うアカウントです。Discovery Accelerator でさまざまな処理を実行するには、多数の SQL Server ロールをこのアカウントに割り当てる必要があります。必要な 2 つのロールは次のとおりです。

- **dbcreator** (データベース作成者)。Discovery Accelerator の設定とカスタマーデータベースを作成する機能は、このロールを持っているボルトサービスアカウントに依存しています。
- **sysadmin** (システム管理者)。Discovery Accelerator の機能を使うと、検索を繰り返して実行するスケジュール、または後で実行するスケジュールを作成できます。これらのスケジュールは SQL Server エージェントのジョブであり、デフォルトでは、**sysadmin** ロールを備えたユーザーをスケジュールの作成者と所有者にすることを前提に作成します。
さらに、Discovery Accelerator ケースの分析を有効にするには **sysadmin** ロールが必要です。

メモ: dbcreator ロールと sysadmin ロールはサーバー全体にわたるロールであり、適切と考えられる権限よりも多くのセキュリティ権限をボルトサービスアカウントに付与する可能性があります。このような場合は、Veritas のサポート Web サイトにあるこの記事の手順に従って、ボルトサービスアカウントに必要な最小限の権限を与えることができます。

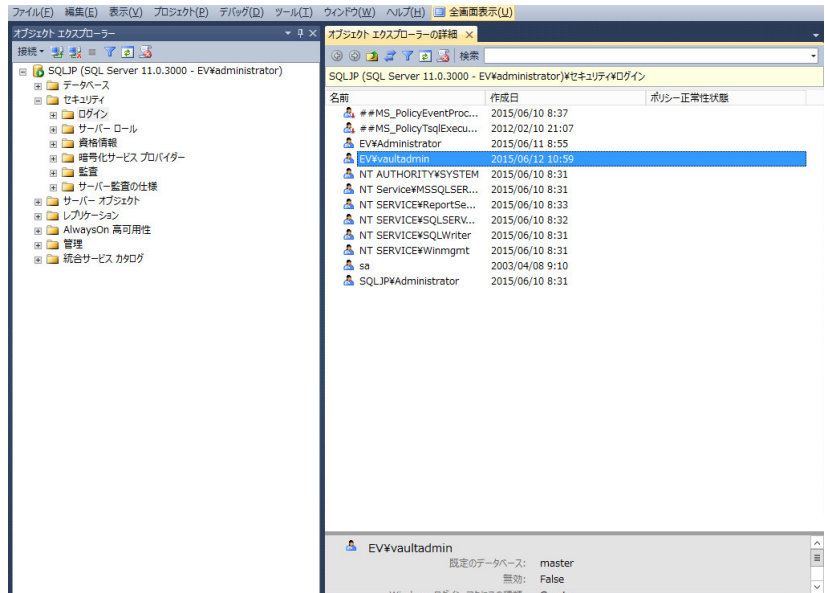
https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100038151

次に、Discovery Accelerator クライアントをインストールした後、セキュリティ設定オプション[スケジュール用に SQL Server SysAdmin サーバーロールを使用する]の値を変更する必要があります。この実行方法について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

ボルトサービスアカウントに SQL Server ロールを割り当てるには

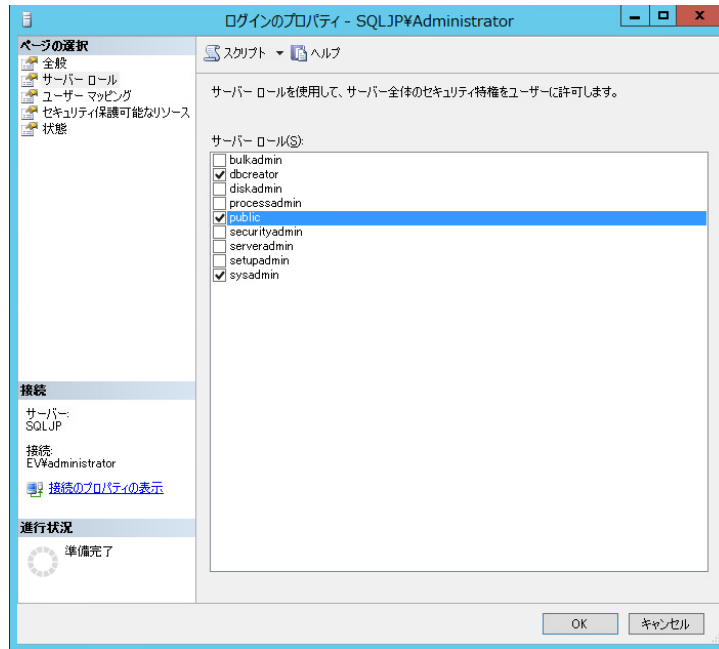
- 1 SQL Server コンピュータで、SQL Server Management Studio を起動します。
- 2 [SQL Server Management Studio]ウィンドウの左ペインで、ツリーを展開して、最初に必要な SQL Server を表示し、次に[セキュリティ]フォルダを開きます。

- 3 [セキュリティ]フォルダの下の[ログイン]をダブルクリックして右ペインにユーザーを表示します。



- 4 [ログイン]一覧で、ボルトサービスアカウントを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 5 [ログインプロパティ]ダイアログボックスで[サーバーロール]ページを選択します。

- 6 [サーバーロール]ボックスで[dbcreator]と[sysadmin]が選択されていることを確認します。



- 7 [OK]をクリックします。

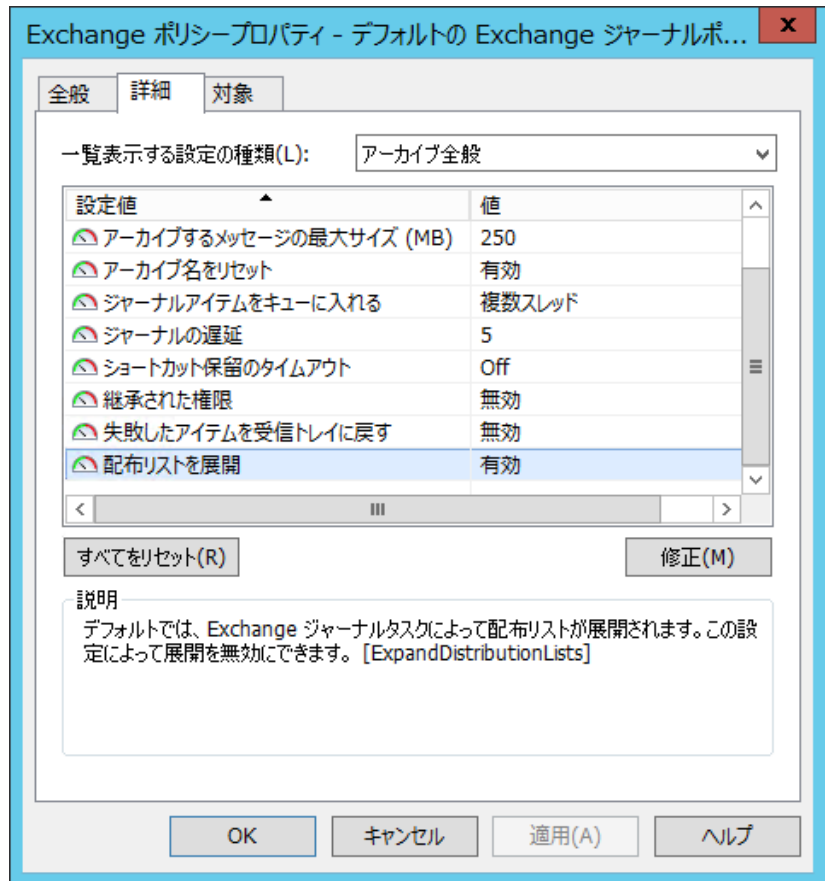
Enterprise Vault による配布リスト展開の確認

Microsoft Exchange 環境では、Enterprise Vault の Exchange ジャーナルタスクがアイテムの[宛先]、[CC]、[BCC]フィールドで配布リストを展開することを確認する必要があります。

Enterprise Vault が配布リストを展開することを確認する方法

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールを開きます。
- 2 ジャーナルポリシーが表示されるまで、左ペインのコンテンツを展開します。

- 3 目的のポリシーを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。次に例を示します。



- 4 [詳細]タブをクリックし、[配布リストを展開]設定の値を確認します。
- 5 設定の値を変更する必要があったら次の操作を実行します。
- [修正]をクリックします。
 - [有効]に値を変更します。
 - 各ダイアログボックスで[OK]をクリックして、変更内容を保存します。
 - ジャーナルタスクを再起動して、変更を有効にします。

Discovery Accelerator のインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator サーバーソフトウェアのインストール](#)
- [Discovery Accelerator クライアントソフトウェアのインストール](#)

Discovery Accelerator サーバーソフトウェアのインストール

このセクションで説明する手順に従って、Discovery Accelerator サーバーソフトウェアの初回インストールを実行します。Discovery Accelerator の既存インストールをアップグレードする場合は、DAUpgradeInstructions ファイルを参照してください。

続行する前に、次の点に注意してください。

- ボルトサービスアカウントとしてこのソフトウェアをインストールする必要があります。
- このソフトウェアを Compliance Accelerator サーバーソフトウェアがインストールされているコンピュータにインストールすることはサポートされていません。
- ネットワーク負荷分散クラスタで使うように Discovery Accelerator を設定できます。ただし、他の種類のクラスタにあるノードにソフトウェアをインストールすることはサポートされていません。
p.46 の「[クラスタ環境への Discovery Accelerator のインストール](#)」を参照してください。

Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールする方法

- 1 リリースメディアをロードし、次のいずれかを行います。
 - インストールランチャーが起動したら、リンクに従って Discovery Accelerator をインストールします。

- **Windows** エクスプローラで、Veritas Enterprise Vault Discovery Accelerator¥Server フォルダを参照して setup.exe を実行します。
setup.exe プログラムはシステム特権と同じフォルダにある Windows インストーラ (.msi) のパッケージを起動します。この特権付与は、インストールの全処理を完了するために必要とされます。
- 2** 画面に表示される指示に従います。いくつかのポイントで情報を送信するようにメッセージが表示されます。
- 以下のセットアップの種類から選択します。
- | | |
|----------------|--|
| Typical | すべてのコンポーネントをインストールします。このオプションはほとんどのユーザーに推奨されます。 |
| Custom | インストールするコンポーネントを選択できます。たとえば、Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスをインストールするが、カスタディアンマネージャ Web サイトまたは Discovery Accelerator の API Web サイトはインストールしないように選択できます。 |
- [前提条件] ページでは TEMP フォルダが安全であることを確認する必要条件があることに留意してください。最初にフォルダが特定のセキュリティの必要条件を満たしていることを確認しないで Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールすることはできません。
p.20 の「[一時フォルダのセキュリティの必要条件](#)」を参照してください。
- 3** Accelerator マネージャサービスをインストールするように選択した場合は、インストールプログラムが終了したときに Enterprise Vault Accelerator マネージャ Web サイトを表示するオプションを選択します。その後で、設定データベースとカスタマーデータベースを作成できます。
- ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効なサーバーに Discovery Accelerator をインストールした場合、インストールプログラムは自動的に管理者権限で Accelerator マネージャ Web サイトを開きます。(これはそのような環境で Web サイトにアクセスする場合の必要条件です。) UAC が有効でなければ、[ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスは Web サイトにアクセスするユーザーアカウントの名前とパスワードの入力を求めるメッセージを表示することがあります。Enterprise Vault サーバーの管理に使うボルトサービスアカウントの詳細を入力します。
- p.30 の「[設定データベースとカスタマーデータベースの作成](#)」を参照してください。
- 4** リーガルホールド機能を使ってユーザーにアーカイブからアイテムを削除させないようにするには、Enterprise Vault サイトの各ストレージサーバーに Discovery Accelerator のライセンスをインストールします。

Enterprise Vault で Windows のファイアウォールを通した Discovery Accelerator への通信を許可する

ファイアウォールを通して Enterprise Vault と Discovery Accelerator との通信を許可するには、Discovery Accelerator サーバーの Windows ファイアウォールを設定する必要があります。Enterprise Vault サーバーと Discovery Accelerator サーバー間の特定の対話では、制限なく通信できる必要があります。Accelerator サービスプロセスをファイアウォールの例外一覧に追加することによって、Windows ファイアウォールを通した Discovery Accelerator への通信を Enterprise Vault に許可できます。

この手順を完了するには、管理者としてコンピュータにログオンする必要があります。

Enterprise Vault で Windows のファイアウォールを通した Discovery Accelerator への通信を許可する方法

- 1 コントロールパネルで[システムとセキュリティ]をクリックし、次に[Windows ファイアウォール]をクリックします。
- 2 [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]をクリックします。
- 3 [設定の変更]をクリックし、次に[別のプログラムの許可]をクリックします。
- 4 [参照]をクリックして Discovery Accelerator プログラムフォルダ (通常は C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault Business Accelerator) を参照します。
- 5 AcceleratorService.exe をクリックし、次に[オープン]をクリックします。
- 6 [追加]をクリックし、次に[OK]をクリックします。

設定データベースとカスタマーデータベースの作成

Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールした後、Accelerator マネージャ Web サイトから必要な設定データベースとカスタマーデータベースを設定する必要があります。

設定データベースは、カスタマーデータベースの場所を指定し、使用する SQL Server、データベースファイルおよびログファイルの詳細を格納します。各カスタマーデータベースは、ケースの詳細、ユーザーロール、検索結果、レビューマーク、タグなどを格納します。

設定データベースは 1 つしか設定できませんが、カスタマーデータベースは複数設定できます。設定データベースとカスタマーデータベースは別々の SQL Server 上に設定できます。たとえば、Discovery Accelerator で検索を実行するグループを区別する場合などに、複数のカスタマーデータベースを設定すると便利です。法務部と人事部の双方で検索を実行する必要があるとします。これら 2 つの部門では、Discovery Accelerator システムのロールを共有できない可能性があります。2 つのカスタマーデータベースを設定すると、双方の部門で、同じ Discovery Accelerator 設定にアクセスせずに Discovery Accelerator を使うことができます。

続行する前に、次の点に注意してください。

- ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効なサーバーに Discovery Accelerator をインストールしたら、管理者権限で Accelerator マネージャ Web サイトを開く必要があります。
- Symantec Endpoint Protection が Discovery Accelerator サーバーで実行されている場合は、一時的にこれをシャットダウンすることを推奨します。
p.56 の「Symantec Endpoint Protection が実行されている場合は Discovery Accelerator カスタマーデータベースを作成またはアップグレードできない」を参照してください。

設定データベースを作成する方法

- 1 まだ Accelerator マネージャ Web サイトを表示していない場合は、次の場所を参照します。

`http://server_name/EVBAAAdmin`

ここで、`server_name` は Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールしたサーバーの名前です。

- 2 「設定データベースの詳細」ページで、詳細を適切に入力し、[OK]をクリックします。

SQL Server

SQL Server コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。IPv4 または IPv6 形式で IP アドレスを指定できません。SQL インスタンスがサポートされます。

データベースが AlwaysOn 可用性グループまたはフェールオーバークラスティンスタンス (FCI) に含まれる SQL Server 環境では、可用性グループのリスナーまたは FCI の仮想ネットワーク名または IP アドレスを指定できます。AlwaysOn 環境でデータベースを配備するガイドラインについては、Microsoft 社の Web サイトで次の記事を参照してください。

<https://msdn.microsoft.com/library/ff878487.aspx>

デフォルト以外のポートを使う場合はポート番号を付加する必要があります。例: SQLServer,1234

データベース名

設定データベースの名前を指定します。名前には次の文字を使えません。

¥ / : * ? " < > | '

メモ: Compliance Accelerator と Discovery Accelerator は同じ設定データベースを共有できません。したがって、あるアプリケーションの設定データベースを以前に作成した場合、別のアプリケーションを設定するときに異なる名前の新しいデータベースを作成する必要があります。

既存のデータベースの使用	新しいデータベースを作成するのではなく、指定した既存のデータベースを使うように Discovery Accelerator に指示します。このオプションを選択した場合、ページの残りのフィールドは利用できません。
データファイルフォルダ	<p>設定データベースファイルの場所を指定します。この場所は SQL Server コンピュータの有効な既存のパスにしてください。デフォルトの設定データベースには、300 MB 以上が必要です。</p> <p>ローカルパスまたは UNC パスを指定できます。たとえば、E:\SQLData または ¥¥my_computer¥SQLData にパスを指定できます。</p>
ログファイルフォルダ	<p>データベースログファイルの場所を指定します。この場所は SQL Server コンピュータの有効な既存のパスにしてください。データベースログファイルには、300 MB 以上が必要です。</p> <p>ローカルパスまたは UNC パスを指定できます。たとえば、E:\SQLLogs または ¥¥my_computer¥SQLLogs にパスを指定できます。</p>
データベースの初期サイズ	設定データベースファイルの初期サイズを MB 単位で設定します。[増分 %] フィールドでは、より多くの容量が必要になるたびにファイルに自動的に追加される容量を、ファイルサイズの割合で指定できます。
ログの初期サイズ	データベースログファイルの初期サイズを MB 単位で設定します。[増分 %] フィールドでは、より多くの容量が必要になるたびにファイルに自動的に追加される容量を、ファイルサイズの割合で指定できます。
Windows 認証	設定データベースに接続するときに Microsoft Windows ユーザーアカウントを使うかどうかを指定します。このオプションをクリアする場合は、データベース接続に使う SQL ログオン名とパスワードを設定する必要があります。
接続タイムアウト	設定データベースにつなぐ接続を完了する場合に、何秒待機してから設定データベースにつなぐ接続の試行を終了してエラーを生成するかを指定します。
接続有効期間	設定データベースにつなぐ接続が有効であると見なすまでの時間を秒単位で指定します。ここで指定した時間が経過すると、接続は破棄されます。
最大プールサイズ	設定データベースに同時に開くことができるデータベース接続の最大数を指定します。

- 3 Discovery Accelerator にメッセージが表示されたら、Microsoft 管理コンソールのサービススナップインを使って Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを再起動します。

メモ: サービスを再起動することにより Discovery Accelerator でアプリケーションが使うさまざまな一時フォルダのセキュリティを確認できます。このセキュリティ検査が失敗すると、585 の ID を用いるエラーイベントが Veritas Enterprise Vault のイベントログに記録され、サービスは開始されません。

p.20 の「一時フォルダのセキュリティの必要条件」を参照してください。

- 4 Accelerator マネージャ Web サイトで、Discovery Accelerator にライセンスキーファイルをインポートするために[ライセンスのアップロード]をクリックします。

カスタマーデータベースを作成する方法

- 1 Accelerator マネージャ Web サイトの左ペインでサーバーノードを右クリックし、[新規カスタマー]をクリックします。
- 2 [カスタマーの作成]ページで詳細を入力し、[OK]をクリックします。

カスタマーの種類	このデータベースが Discovery Accelerator またはカスタムディアンマネージャのカスタマーデータベースであるかどうかを指定します。
名前	カスタマーに重複のない名前を指定します。名前には次の文字を使えません。 ¥ / : * ? " < > '
ディレクトリ DNS エイリアス	Enterprise Vault ディレクトリサービスコンピュータの DNS エイリアス、サーバー名、IP アドレスを指定します。IPv4 または IPv6 で形式 IP アドレスを指定できます。 複数のディレクトリサービスコンピュータを指定する場合は、1 行に各コンピュータの詳細を入力します。すべてのコンピュータが同一バージョンの Enterprise Vault を実行している必要があります。 正しい DNS エイリアス情報を指定するよう注意してください。情報に誤りがある場合、ボルトストアは Discovery Accelerator クライアントのどの領域にも表示されません。

管理者ユーザーまたはグループ	<p>任意で Discovery Accelerator のカスタマーデータベースの管理者として Active Directory ユーザーのアカウントかグループのアカウントを指名します。このユーザーまたはグループにはカスタマーデータベースに完全な管理権限があり、他のユーザーに通常アプリケーション全体のロールを割り当てます。フォーム <code>domain¥user_or_group_name</code> でアカウントの詳細を指定してします。たとえば、「OurDomain¥Marie.Lopez」。</p> <p>ボルトサービスアカウントはすでにカスタマーデータベースで完全な管理権限を持っているため、通常は他のユーザーやグループを指名する必要はありません。ただし会社のポリシーがサービスアカウントの使用を制限すれば、これを行う場合もあります。</p>
カスタマーのタスクの有効化	<p>ユーザーが Discovery Accelerator クライアントのアクティビティを実行できるようにします。このオプションをクリアすると、スケジュール設定済みの検索などの自動タスクのみが許可されます。</p>
[IIS]セクション	
仮想ディレクトリ	<p>Discovery API の Web サイトの IIS 仮想ディレクトリの名前を指定します。このサイトでは、ソフトウェア開発者が他社のツールと Discovery Accelerator を統合し、データを Discovery Accelerator カスタマーデータベースから取り込んだり、カスタマーデータベースにエクスポートしたりできます。</p> <p>2 つのカスタマーで同じ仮想ディレクトリ名を共有できません。ディレクトリ名には空白文字や次の文字を使うことはできません。</p> <p>* ? ¥ / % ' "</p> <p>Discovery Accelerator カスタマーの仮想ディレクトリに「EVBAAdmin」という名前を付けることはできません。この名前は Accelerator マネージャ Web サイト用に予約されています。</p>
IIS サーバー	<p>Discovery Accelerator サイトのホストとなる IIS サーバーの名前または IP アドレスを指定します。IP アドレスは、IPv4 と IPv6 のいずれの形式でも入力できます。ただし、コロンの (:) が含まれているか、角カッコ ([]) で囲まれている IPv6 アドレスを入力することはできません。</p> <p>このフィールドのデフォルトのエントリは Accelerator マネージャ Web サイトを実行しているサーバーです。</p>

仮想ディレクトリの管理

Discovery Accelerator クライアントを使って仮想ディレクトリを管理できるようにします。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

[データベースの詳細] セクション

SQL Server

カスタマーデータベースが存在する SQL Server コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。IPv4 または IPv6 形式で IP アドレスを指定できます。SQL インスタンスがサポートされます。

または、データベースが AlwaysOn 可用性グループまたはフェールオーバークラスティンスタンス (FCI) に含まれる場合、可用性グループのリスナーまたは FCI の仮想ネットワーク名または IP アドレスを指定できます。

AlwaysOn 環境でデータベースを配備するガイドラインについては、Microsoft 社の Web サイトで次の記事を参照してください。

<https://msdn.microsoft.com/library/ff878487.aspx>

デフォルト以外のポートを使う場合はポート番号を付加する必要があります。例: SQLServer,1234

Database

カスタマーデータベースの名前を指定します。名前には次の文字を使えません。

¥ / : * ? " < > | '

既存のデータベースの使用

新しいデータベースを作成するのではなく、指定した既存のデータベースを使うように Discovery Accelerator に指示します。このオプションを選択すると、ページの残りのフィールドの多くは利用できなくなります。デフォルトでは、このオプションはクリアされています。

データファイルフォルダ

設定データベースファイルの場所を指定します。この場所は SQL Server コンピュータの有効な既存のパスにしてください。

ローカルパスまたは UNC パスを指定できます。たとえば、E:¥SQLData または ¥¥my_computer¥SQLData にパスを指定できます。

ログファイルフォルダ

データベースログファイルの場所を指定します。この場所は SQL Server コンピュータの有効な既存のパスにしてください。

ローカルパスまたは UNC パスを指定できます。たとえば、E:¥SQLLogs または ¥¥my_computer¥SQLLogs にパスを指定できます。

データベースの初期サイズ	カスタマーデータベースファイルの初期サイズを MB 単位で設定します。[増分 %]フィールドでは、より多くの容量が必要になるたびにファイルに自動的に追加される容量を、ファイルサイズの割合で指定できます。
ログの初期サイズ	データベースログファイルの初期サイズを MB 単位で設定します。[増分 %]フィールドでは、より多くの容量が必要になるたびにファイルに自動的に追加される容量を、ファイルサイズの割合で指定できます。
Windows 認証	カスタマーデータベースへの接続に Microsoft Windows ユーザーアカウントを使うかどうかを指定します。このオプションをクリアする場合は、データベース接続に使う SQL ログオン名とパスワードを設定する必要があります。
接続タイムアウト	カスタマーデータベースへの接続の試行を終了してエラーを生成する前に接続を待機する時間を秒単位で指定します。
接続有効期間	カスタマーデータベースへの接続が有効であると判断される時間を秒単位で指定します。ここで指定した時間が経過すると、接続は破棄されます。
最大プールサイズ	カスタマーデータベースに対して同時に開くことができるデータベース接続の最大数を指定します。
DSN	カスタマーデータベースへの接続に使う完全な接続文字列またはデータソース名 (DSN) を指定します。データベースを作成して接続する処理によって、自動的にこのフィールドへの入力が行われます。Veritas サポートがそうするように助言しなければ、詳細を修正しないでください。

[分析のデータベースの場所]セクション

ページのこの領域で、分析データの既存のデータベースの場所を一覧表示して、新しいデータベースの場所を追加できます。分析用のデータベースの場所を 1 つ以上指定する必要があります。このカスタマーで分析機能を使わない場合は、デフォルトのデータベースの場所を使います。

p.37 の「[分析データベースの場所の設定](#)」を参照してください。

- 3 Discovery Accelerator によってカスタマーデータベースが作成されるまで待ちます。この処理が完了するまで数分かかる場合があります。
- 4 作成するカスタマーデータベースごとに手順 1 から 3 までは繰り返します。

分析データベースの場所の設定

分析に対してケースを有効にすると、Discovery Accelerator は Enterprise Vault のすべてのケースアイテムをカスタマーデータベースにフェッチし、インデックス付けします。これには大量のディスク領域が必要です。Discovery Accelerator では、場所を定義して分析テーブルファイルグループとインデックスをホストすることができます。さらにディスク領域が必要な場合は、場所を追加できます。

Accelerator マネージャ Web サイトの[カスタマー]ページで既存の分析データベースの場所を一覧表示して、さらに場所を追加できます。各場所の横にある[テーブルファイルグループ]と[フルテキストインデックス]列のチェックマークは、その場所がテーブルファイル、検索インデックス、またはその両方に使われているかどうかを示します。

分析データベースの場所の計画と設定を行う場合は、以下のことを考慮してください。

- データのボリューム。分析データの収集とインデックス付けでは、大容量のデータベースとインデックスファイルが生成される可能性があります。おおよその目安としては、サイズがすべて 20 KB のアイテムを百万個収集すると、40 GB またはそれ以上のサイズのデータベースが生成される可能性があります。ただし、これは環境によって異なります。

Discovery Accelerator の『ベストプラクティスガイド』では、Discovery Accelerator データベースのサイズを適切に調整する方法について広範な情報が提供されます。このマニュアルは Veritas のサポート Web サイト

(<https://www.veritas.com/docs/100024378>) から入手できます。

- パフォーマンス。物理的に異なるディスク上にある各データベースの場所をホストします。分析データベースの場所が複数ある場合、Discovery Accelerator では、データとディスクのアクセスの必要条件が分散されるように、それらの場所が交代で使われます。

各 Discovery Accelerator ケースで使われるのは、検索インデックス用に 1 つの場所とデータベース用に 1 つの場所だけです。

次の例に、有効な分析データベースの場所の設定を 2 つ示します。

表 3-1 分析データベースの場所: 例 1

場所	テーブルファイルグループ	フルテキストインデックス
C:\SQL¥Data	選択	選択
D:\SQL¥Data	選択	選択
E:\SQL¥Data	選択	選択
F:\SQL¥Data	選択	選択

表 3-2 分析データベースの場所: 例 2

場所	テーブルファイルグループ	フルテキストインデックス
C:¥SQL¥Data	クリア	選択
D:¥SQL¥Data	クリア	選択
E:¥SQL¥Data	選択	クリア
F:¥SQL¥Data	選択	クリア

分析用のデータベースの場所を追加する方法

- 1 Accelerator マネージャ Web サイトを参照します。
- 2 該当するカスタマーを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 3 [分析のデータベースの場所]で[新しい場所]をクリックします。
- 4 新しいデータベースの場所へのパスを入力します。次の点に注意してください。
 - データベースの場所は SQL Server 上に存在する必要があります。また、ローカルパスを使って参照する必要があります。たとえば、データベースの場所を参照するために UNC パスを使わないでください。
 - Accelerator マネージャ Web サイトでは、指定された場所が存在するかどうかは確認されません。パスが有効であることを確認してください。
- 5 [テーブルファイルグループ]、[フルテキストインデックス]、またはその両方を選択します。
- 6 新しい場所の横の[OK]をクリックします。
- 7 さらにデータベースの場所を追加する場合は、手順 3 から 6 までを繰り返します。

カスタディアンマネージャ Web サイトの設定

カスタディアンマネージャは、Discovery Accelerator で検索するカスタディアン(個々の従業員)とカスタディアングループの詳細を格納できる、ブラウザベースのアプリケーションです。カスタディアングループは、Windows グループまたは Domino グループと配布リスト、Active Directory 検索または Domino LDAP 検索、Active Directory コンテナなどの従業員の任意の集まりです。カスタディアンマネージャにカスタディアンとカスタディアングループを追加しておく、Discovery Accelerator の検索基準を定義するときにそれらの中から選択できます。

メモ: Discovery Accelerator 設定データベースに設定できるカスタディアンマネージャ Web サイトは 1 つのみです。設定データベースを共有するすべてのカスタマーがカスタディアンマネージャを共有できます。

カストディアンマネージャ Web サイトを設定する方法

- 1 アクセラレータマネージャの Web サイトを開きます。
ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効なサーバーに Discovery Accelerator をインストールしたら、管理者権限で Accelerator マネージャ Web サイトを開く必要があります。
- 2 左ペインでサーバーノードを右クリックし、[新規カスタマー]をクリックします。
- 3 [カスタマーの作成] ページで、カスタマーの種類を[カストディアンマネージャ]に設定します。
- 4 IIS と SQL データベースの詳細を適切に入力し、[OK]をクリックします。
- 5 作成したばかりのカストディアンマネージャ Web サイトを参照します。この Web サイトのアドレス形式は、次のとおりです。

`http://server_name/virtual_directory`

次に例を示します。

`http://server2/EVBACustodianManager`

- 6 カストディアンマネージャの機能を使って、カストディアンとカストディアングループの作成と管理を行います。この実行方法について詳しくは、『管理者ガイド』と『カストディアンマネージャのヘルプ』を参照してください。

カストディアンマネージャの同期アカウントに必要な Active Directory 権限を割り当てる

デフォルトでは、カストディアンマネージャは、カストディアンとカストディアングループを、対応する Active Directory アカウントと同期させているときに Accelerator マネージャ サービスが実行しているアカウントを使います。ただし、必要に応じて別のアカウントをドメインごとに指定できます。

同期を目的として別のユーザーアカウントを指定する方法について詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。

指定する同期アカウントには、Active Directory ドメインへのクエリー代行権限が必要です。

カストディアンマネージャ同期アカウントに必要な代行権限を割り当てる方法

- 1 [Active Directory ユーザーとコンピュータ]を開きます。
- 2 ドメインオブジェクトを右クリックし、[制御の委任]をクリックします。
- 3 制御の代行ウィザードで[次へ]をクリックしてから[追加]をクリックします。
- 4 [ユーザー、コンピューターまたはグループの選択]ダイアログボックスで、必要なアカウント名を入力してから[OK]をクリックし、[次へ]をクリックします。

- 5 [委任するタスク]ページの[次の共通タスクの制御を委任する]で、次のタスクを選択してから[次へ]をクリックします。
 - すべてのユーザー情報の読み取り
 - すべての inetOrgPerson 情報を読み取る
- 6 [完了]をクリックします。

カストディアンマネージャの同期アカウントが削除済みオブジェクトコンテナにアクセスできるようにする

カストディアンマネージャ同期アカウントには、Active Directory の削除済みオブジェクトコンテナに対する内容の一覧表示権限とプロパティの読み取り権限も必要です。これらの権限がないと、Active Directory の詳細が削除済みオブジェクトコンテナに移動されたカストディアングループとカストディアンを非アクティブ化できません。

Microsoft 社の Web サイトの次の記事に、削除済みオブジェクトコンテナの権限を表示、設定する詳しい方法が記載されています。

<https://technet.microsoft.com/library/cc816824.aspx>

メモ: dsaccls コマンドラインユーティリティの新しいバージョンを使って、この記事の手順を完了する必要があります。古いバージョンのユーティリティは必須コマンドのいくつかをサポートしていません。

手順の概略は次のとおりです。

カストディアンマネージャの同期アカウントが削除済みオブジェクトコンテナにアクセスできるようにするには

- 1 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 2 次のように、dsaccls コマンドラインユーティリティを実行して削除済みオブジェクトコンテナの所有権を取得します。

```
dsaccls deleted_objects_dn /takeownership
```

パラメータについて次に説明します。

deleted_objects_dn	削除済みオブジェクトコンテナの識別名。
--------------------	---------------------

/takeownership	削除済みオブジェクトコンテナの所有権を取得します。
----------------	---------------------------

次に例を示します。


```
dscls "CN=Deleted Objects,DC=Contoso,DC=com" /takeownership
```

- 3 次のように、カストディアンマネージャがカストディアンとカストディアングループを同期するためのユーザーアカウントに内容の一覧表示とプロパティの読み取りの権限を割り当てます。

```
dscls deleted_objects_dn /G user_or_group:permissions
```

パラメータについて次に説明します。

`deleted_objects_dn` 削除済みオブジェクトコンテナの識別名。

`user_or_group` 権限が適用されるユーザーまたはグループ。

権限 割り当てる権限。「内容の一覧表示」と「プロパティの読み取り」の場合は、LCRP として権限を指定してください。

次に例を示します。

```
dscls "CN=Deleted Objects,DC=Contoso,DC=com" /G  
CONTOSO¥VaultAdmin:LCRP
```

Discovery Accelerator レポートテンプレートのアップロード

レポートのしくみとして Microsoft SQL Server Reporting Services を使うと、Discovery Accelerator は、ケースの詳細を監視するためと、開示要求のコンプライアンスの有効性を確認するための広範な機能を提供します。利用可能なレポートとそれらの使用方法のガイドラインについては、『管理者ガイド』を参照してください。

Discovery Accelerator クライアントのユーザーがレポートを利用できるようにするには、付属のテンプレート (.rdl) ファイルを SQL レポートサーバーにアップロードする必要があります。テンプレートファイルには、各レポート用のデータの取得およびレイアウト情報が XML 形式で含まれています。

メモ: SQL Server の AlwaysOn 環境に Discovery Accelerator を配備する場合は、Reporting Services を適切に設定することに注意します。

p.45 の「[AlwaysOn 環境での SQL Server Reporting Services の使用](#)」を参照してください。

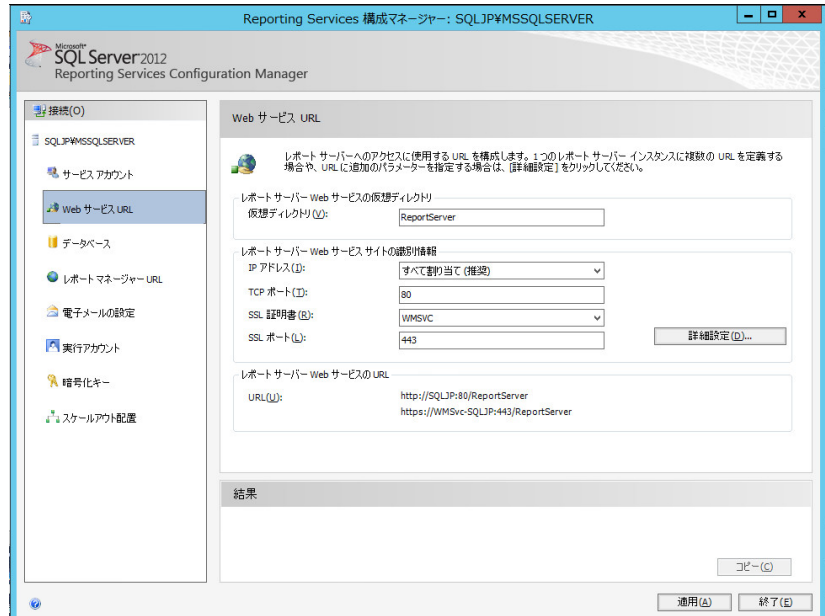
Discovery Accelerator レポートテンプレートをアップロードする方法

- 1 すでに行っていない場合は、選択したレポートサーバーに SQL Server Reporting Services をインストールして設定します。

レポートサーバーの Reporting Services Configuration Manager を使用して、SQL Server Reporting Services の設定を確認できます。[Web サービス URL] ページ

の仮想ディレクトリ名を書き留めます。この名前は後で指定する必要があります。仮想ディレクトリのデフォルトの名前は[ReportServer]です。

次の図は[Web サービス URL]ページの典型的な設定を示したものです。



2 SQL レポートサーバーで、ボルトサービスアカウントに次のロールを割り当てます。

- SQL レポートサーバーのシステム管理者ロール。
SQL Server に付属するブラウザベースのレポートマネージャツールを使って、このロールを割り当てることができます。最初に、レポートマネージャのグローバルツールバーで[サイトの設定]をクリックし、[セキュリティ]をクリックします。その後、[新しいロールの割り当て]をクリックし、システム管理者ロールをボルトサービスアカウントに割り当てます。
- SQL レポートサーバーのホームフォルダのコンテンツマネージャロール。
レポートマネージャでこのロールを割り当てするには、ホームフォルダの[プロパティ]タブの[セキュリティ]をクリックします。その後、[新しいロールの割り当て]をクリックし、コンテンツマネージャロールをボルトサービスアカウントに割り当てます。

詳しくは Microsoft Reporting Services のマニュアルを参照してください。

- 3 Discovery Accelerator サーバーで、Accelerator マネージャ Web サイトを開きます。
- 4 ページの下部にある[レポートサーバー]をクリックします。

[レポートサーバーのテンプレートのアップロード]ページが表示されます。

- 5 [レポートサーバーの URL]フィールドに、SQL レポートサービスにアクセスするための URL を次の形式で入力します。

`http://server_name/virtual_directory`

ここで、**server_name** は、ホスト名、完全修飾ドメイン名、SQL レポートサーバーの IPv4 または IPv6 アドレスで、**virtual_directory** は必要な仮想ディレクトリの名前です。次に例を示します。

`http://EVSQL/ReportServer`

次の点に注意してください。

- 複数の SQL Server インスタンスがある場合は、次の形式で URL を入力します。
`http://server_name/virtual_directory$instance_name`
- デフォルトの 80 以外のポートで HTTP 要求をリスンするように SQL レポートサーバーを設定した場合は、次の形式で URL を入力します。
`http://server_name:port_number/virtual_directory`

- 6 [ユーザー名]フィールドと[パスワード]フィールドに、ボルトサービスアカウントの資格情報を入力します。これにより、ボルトサービスアカウントが、Discovery Accelerator サーバーと SQL レポートサーバー間のすべてのやり取りの所有者として認識されます。

注意: Accelerator マネージャ Web サイトでは、入力したログオン資格情報は認証されないため、正しい資格情報を入力することが重要です。資格情報を省略したり、誤った資格情報を入力した場合は、Discovery Accelerator クライアントユーザーがレポートを生成しようとするとき「レポートの作成中にエラーが発生しました」というエラーメッセージが表示されます。

- 7 [Upload Reports]をクリックします。

レポートテンプレートをサーバーにアップロードするには数分かかる場合があります。処理が完了すると、確認のメッセージが表示されます。

SQL Server AlwaysOn 環境で使うための Discovery Accelerator の設定

SQL Server AlwaysOn 環境で使うために、Discovery Accelerator を設定して、高可用性とディザスタリカバリを実装できます。AlwaysOn ソリューションでは、可用性グループとフェールオーバークラスティンスタンスという 2 つの主要な SQL Server 機能を活用して高可用性を設定できます。SQL Server のマニュアルには、このような環境における使用に向けたアプリケーションの設定方法について非常に詳しい操作手順が提供されています。

Discovery Accelerator データベースをスタンドアロン SQL Server コンピュータから AlwaysOn 可用性グループまたはフェールオーバークラスティンスタンス (FCI) に移動する場合は、それに基づいて構成を更新する必要があります。次の手順では、必要なステップの概略を示します。

注意: 旧バージョンから最新バージョンの Discovery Accelerator にアップグレードする場合は、データベースを AlwaysOn 可用性グループまたは FCI に移動する前にアップグレードを完了させる必要があります。データベースを移動した後に Discovery Accelerator をアップグレードすることはできません。

SQL Server AlwaysOn 環境で使うために Discovery Accelerator を設定する方法

- 1 Accelerator マネージャの Web サイト (http://server_name/EVBAAdmin) を開きます。
- 2 Accelerator マネージャの Web サイトの左ペインで、サーバー名を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 3 必要な Discovery Accelerator 構成データベースの詳細情報を設定します。次のいずれかを指定できます。
 - スタンドアロン SQL Server コンピュータの名前または IP アドレス。
 - AlwaysOn 可用性グループリスナーまたは FCI の仮想ネットワーク名または IP アドレス。

デフォルト以外のポートを使う場合はポート番号を付加する必要があります。例:
SQLServer,1234

- 4 各カスタマーデータベースとキャストディアンマネージャデータベースについて、次の操作を実行します。
 - Accelerator マネージャの左ペインで、必要なデータベースを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

- [SQL Server]フィールドで、必要なデータベースの詳細情報を設定します。以前と同様に、スタンドアロン SQL Server コンピュータ、AlwaysOn 可用性グループリスナーまたは FCI の名前または IP アドレスを指定できます。デフォルト以外のポートを使うように選択している場合は、そのポート番号を付加する必要があります。

AlwaysOn 環境での SQL Server Reporting Services の使用

Microsoft 社は AlwaysOn 環境での SQL Server Reporting Services の使用を完全にはサポートしません。その結果、Discovery Accelerator もその使用をサポートしません。ただし、次の記事が説明するとおり、AlwaysOn 可用性グループで機能するように Reporting Services を設定できます。

<https://msdn.microsoft.com/hh882437.aspx>

AlwaysOn 環境で Discovery Accelerator レポートを使えるようにするには次の手順を実行する必要があります。

- 可用性グループのすべてのレプリカに SQL Server Reporting Services をインストールします。
- プライマリレプリカ上のボルトサービスアカウントに割り当てたものと同じレポートサービスの資格情報を、すべてのセカンダリレプリカのボルトサービスアカウントに割り当てます。
 - システム管理者ロール
 - ホームフォルダのコンテンツマネージャロール

資格情報を割り当てるには、SQL Server に付属するレポートマネージャツールを使います。

p.41 の「[Discovery Accelerator レポートテンプレートのアップロード](#)」を参照してください。

- プライマリレプリカで、Reporting Services 構成マネージャの[暗号化キー]ページを使って、レポートサーバーデータベースの暗号化キーをファイルにバックアップします。
- ReportServer と ReportServerTempDB というレポートサーバーデータベースを可用性グループに追加します。
- Accelerator マネージャの Web サイトを介して Discovery Accelerator レポートテンプレートをアップロードするときに、レポートサーバーの正しい URL を指定します。スタンドアロン SQL レポートサーバーの名前またはアドレスを指定する代わりに、適切な可用性グループリスナーの可能ネットワーク名を指定する必要があります。たとえば、次のようにレポートサーバーの URL を指定できます。
`http://availability_group_listener/ReportServer`
- フェールオーバーの発生後に、次の手順を実行します。

- **Reporting Services** 構成マネージャを使って、新規プライマリレプリカ上のレポートサーバーサービスをフェールオーバーしたデータベース (**ReportServer** と **ReportServerTempDB**) にポイントします。
古いプライマリレプリカ上で以前に指定したドメインユーザーと同じドメインユーザーのレポートサーバーデータベースの資格情報を指定します。
- **Reporting Services** 構成マネージャの[暗号化キー]ページで、古いプライマリレプリカで以前に作成したバックアップファイルから暗号化キーを復元します。

クラスタ環境への Discovery Accelerator のインストール

Veritas は Windows Server フェイルオーバークラスタ、Veritas Cluster Server (VCS) クラスタ内のノードへの Discovery Accelerator サーバーソフトウェアのインストールをサポートしません。従って、クラスタ内で使用するように Enterprise Vault を設定した場合は、そのクラスタノードのいずれにもサーバーソフトウェアをインストールしてはなりません。ただし、クラスタ化されていない Discovery Accelerator をインストールすると Enterprise Vault のクラスタ化された仮想サーバーを参照できます。

さらに、ネットワーク負荷分散クラスタで使用するように Discovery Accelerator を設定すると、拡張性、パフォーマンス、および高可用性を強化できます。

ネットワーク負荷分散クラスタで使う Discovery Accelerator の設定

ネットワーク負荷分散 (NLB) は、Microsoft 社が Windows Server 2012 以上の一部として提供するクラスタテクノロジーです。

NLB はクラスタのすべてのノードにネットワークトラフィックを分散します。これらのノードは協力してアプリケーションの共通セットを実行し、クライアントユーザーに対して単一システムのイメージを提供します。NLB では、クラスタのノードにクライアント要求を分散することによって、Discovery Accelerator の拡張性とパフォーマンスを向上させますが、Discovery Accelerator のバックグラウンドタスクには影響を与えません。また、ノードの障害を検出し、動作中のノードにトラフィックを自動的に再分散することによって高可用性も実現させます。

NLB クラスタを設定するプロセスでは、クラスタの仮想名または IP アドレスを指定する必要があります。Discovery Accelerator クライアントの起動時に、ユーザーは接続先のサーバーとしてこの仮想名またはアドレスを指定する必要があります。

負荷分散について、詳しくは『ベストプラクティスガイド』を参照してください。このホワイトペーパーを入手するには、Veritas サポート Web サイトの次のページを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100024378>

NLB クラスタで使うために Discovery Accelerator を設定する方法

- 1 NLB クラスタに含める各ノードが固定 IP アドレスを所有していることを確認します。

これらの固定アドレスがない場合は、ネットワーク管理者から取得できます。

- 2 Windows に付属のネットワーク負荷分散マネージャを使ってクラスタを設定し、管理します。

この方法のガイドラインについてはネットワーク負荷分散マネージャに付属のマニュアルを参照してください。

- 3 クラスタの各ノードに Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールします。

最小限の条件として、各ノードに Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスをインストールする必要があります。

Discovery Accelerator データベースのセキュリティの最大化

デフォルトでは、ボルトサービスアカウントはすべての Discovery Accelerator データベースを所有し、それらのデータベース内のすべてのオブジェクトにアクセスできます。SQL Server 環境のセキュリティを最大化するために、各データベースの所有権を変更し、ボルトサービスアカウントのアクセス権限の多くを取り消すことが必要な場合があります。Veritas サポート Web サイトの次の記事に、これらの処理の実行方法が記載されています。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100038151

Discovery Accelerator クライアントソフトウェアのインストール

注意: ユーザーのコンピュータにインストールするクライアントソフトウェアのバージョンは、Discovery Accelerator サーバー上の Discovery Accelerator サーバーソフトウェアのバージョンと完全に一致する必要があります。

Discovery Accelerator クライアントの設定ファイルの修正

作業を進める前に、インストールパッケージに付属する設定ファイルを修正することを推奨します。このファイルの設定の 1 つに、Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールしたコンピュータの名前またはアドレスがあります。設定ファイルにこの情報を含めることによって、ユーザーが初めて Discovery Accelerator クライアントを起動したときにコンピュータの名前またはアドレスを入力する手間を省くことができます。

Discovery Accelerator クライアントの設定ファイルを修正する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントソフトウェアのインストールメディアで、AcceleratorClient.Exe.Config 設定ファイルを検索します。
- 2 Windows のメモ帳などのテキストエディタで設定ファイルを開きます。
- 3 次の設定を検索します。

```
<add key="AcceleratorServer" value="localhost" />
```

- 4 この値を Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールしたコンピュータの名前、完全修飾ドメイン名、IPv4 または IPv6 アドレスに置き換えます。次に例を示します。

```
<add key="AcceleratorServer" value="server2" />
```

ネットワーク負荷分散クラスタで使うように Discovery Accelerator を設定している場合は、クラスタの仮想名または IP アドレスを指定する必要があります。

- 5 ファイルを保存して閉じます。

MSI インストーラパッケージを使った Discovery Accelerator クライアントのインストール

通常、MSI インストーラパッケージを実行できる集中型の場所にユーザーをアクセスさせることによって Discovery Accelerator クライアントソフトウェアを配布します。デフォルトで、Discovery Accelerator クライアントソフトウェアのインストーラパッケージは、ソフトウェアのユーザー単位のインストールを行います。この種類のインストールでは、コンピュータの他のユーザーがアプリケーションを実行することはできません。ただし、自分がコンピュータの管理権限を所有している場合、すべてのユーザーがアプリケーションを実行できるようにするには、コンピュータ単位のインストールを実行できます。

Discovery Accelerator クライアントソフトウェアをインストールする方法

- 1 AcceleratorClient.Exe.Config 設定ファイルが Discovery Accelerator クライアントソフトウェアのインストール先フォルダにあることを確認します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。

- ユーザー単位のインストールを実行するには、Discovery Accelerator インストーラパッケージ (Veritas Enterprise Vault Discovery Accelerator Client.msi) を起動します。
- コンピュータ単位のインストールを実行するには、コマンドプロンプトウィンドウを開き、次のように入力します。

```
msiexec /I "path_to/Veritas Enterprise Vault Discovery  
Accelerator Client.msi" INSTALLDIR="install_path" ALLUSERS=1
```


ここでは、次のとおりです。

path_to .msi ファイルのパスを指定します。

install_path クライアントソフトウェアをインストールするフォルダのパスを指定します。

たとえば、次のように入力します。

```
msiexec /I "D:¥Veritas Enterprise Vault Discovery Accelerator  
Client.msi" INSTALLDIR="C:¥Program Files (x86)¥Enterprise Vault  
Discovery Accelerator¥Client¥" ALLUSERS=1
```

注意: ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効なコンピュータの場合は、管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを開いてください。

3 画面に表示される指示に従います。

Discovery Accelerator が使用するポート

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator のデフォルトのポート](#)
- [Discovery Accelerator が使用するポートの変更](#)

Discovery Accelerator のデフォルトのポート

[表 A-1](#) に Discovery Accelerator が使うデフォルトポートをリストします。

表 A-1 Discovery Accelerator のデフォルトのポート

ポート	使用目的
HTTP 用の 80、または HTTPS 用の 443	SQL レポートサーバーと、Discovery Accelerator クライアントおよびサーバーとの通信。
389	LDAP クエリーを使ってカストディアン情報を同期する場合の Discovery Accelerator サーバーと Active Directory グローバルカタログサーバー間の通信。
1433	Discovery Accelerator サーバーと SQL Server コンピュータとの通信。
8085	Discovery Accelerator サーバーと Discovery Accelerator Web サイト(アクセラレータマネージャ、カストディアンマネージャおよび Discovery Accelerator API)との通信。
8086	Discovery Accelerator サーバーと Discovery Accelerator クライアントとの通信。

Discovery Accelerator は、Enterprise Vault サーバーが検索、レビュー、およびエクスポートを行う場合の通信に、標準 DCOM ポートを使用します。Enterprise Vault が使用するポートについて詳しくは、Enterprise Vault の『管理者ガイド』を参照してください。

Discovery Accelerator が使用するポートの変更

別のアプリケーションがデフォルトのポートを必要とする場合、Discovery Accelerator が異なるポートを使用するように設定できます。

SQL Server との通信に使われるポートを変更する方法SQL AlwaysOn を使わない場合

- 1 Discovery Accelerator サーバーで、Accelerator マネージャ Web サイトを開きます。
- 2 左ペインでサーバー名を右クリックし、次に[プロパティ]をクリックします。
- 3 [名前]フィールドで、**server_name**、**port_number**として SQL Server のコンピュータを指定します。
- 4 [OK]をクリックして変更内容を保存します。
- 5 それぞれのカスタマーデータベースで、次の操作を行ってください。
 - 左ペインでデータベース名を右クリックし、次に[プロパティ]をクリックします。
 - [SQL Server]フィールドで、**server_name**、**port_number**として SQL Server のコンピュータを指定します。
 - [OK]をクリックして変更内容を保存します。

SQL AlwaysOn を使用する場合に SQL Server との通信に使うポートを変更する方法

- 1 Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを Discovery Accelerator サーバーで実行している場合は停止します。
- 2 Accelerator マネージャの Web サイトを開いて次のページが表示されるまで待ちます (数分かかる場合があります)。

Accelerator サーバーは現在利用できません。

解決策の候補:

1) ログインを再試行してください。

サーバー	情報
LOCALHOST	OK

ログイン

2) SQL Server の接続を確認してください。
以下に示すように、設定データベースが SQL Server 上に存在していることを確認してください。データベースを別の SQL Server、AlwaysOn 可用性グループ、フェールオーバークラスティンスタンスに移動した場合は、以下の詳細を入力して[更新設定]をクリックします。

SQL Server:

SQL Server コンピュータ、可用性グループリスナー、フェールオーバークラスティンスタンスの名前または IP アドレス、次にデフォルト以外のポートが使用されている場合はポート番号。例: SQLServer,1234.

OK

- 3 [SQL Server]フィールドに必要な詳細を入力して[設定の更新]をクリックします。たとえば、前の図ではこのフィールドに可用性グループリスナー (SQL-L)、カンマ、ポート番号 5053 のように指定しています。
- 4 Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを起動します。

Discovery Accelerator サーバーと Discovery Accelerator Web サイト間の通信に使われるポートを変更する方法

- 1 Discovery Accelerator サーバーで、Discovery Accelerator インストールフォルダの AcceleratorAdminWeb サブフォルダと CustodianManagerWeb サブフォルダで Web.config ファイルのコピーを検索します。
- 2 Windows のメモ帳などのテキストエディタで各ファイルを開きます。
- 3 次の行を見つけ、ポート番号を適切な番号に変更します。

```
<add key="RemotePort" value="8085"/>
```

- 4 ファイルを保存して閉じます。
- 5 Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを再起動します。

Discovery Accelerator サーバーと Discovery Accelerator クライアント間の通信に使われるポートを変更する方法

- 1 それぞれの Discovery Accelerator クライアントコンピュータのインストールフォルダで、AcceleratorClient.Exe.Config ファイルを検索します。

このフォルダは通常 %HOMEPATH%\¥Local Settings¥Application Data¥Enterprise Vault Discovery Accelerator¥Client です。

- 2 Windows のメモ帳などのテキストエディタでファイルを開きます。
- 3 次の行を見つけ、ポート番号を適切な番号に変更します。

```
<add key="AcceleratorServerPort" value="8086" />
```

- 4 ファイルを保存して閉じます。

SQL レポートサーバーとの通信に使われるポートを変更する方法

- 1 Discovery Accelerator サーバーで、Accelerator マネージャ Web サイトを開きます。
- 2 ページの下部にある[レポートサーバー]をクリックします。
[レポートサーバーのテンプレートのアップロード]ページが表示されます。
- 3 [レポートサーバーの URL]フィールドに、SQL レポートサーバーにアクセスするための URL を、次の形式で入力します。

`http://server_name:port_number/virtual_directory`

トラブルシューティング

この付録では以下の項目について説明しています。

- **Discovery Accelerator 12.3** にアップグレードするときにイベントログにエラーメッセージが表示される
- **Enterprise Vault Accelerator** マネージャサービスが作成されない
- **Enterprise Vault Accelerator** マネージャサービスが起動しない
- **UAC** が有効なコンピュータで顧客データベースを作成しようとするときに「アクセスが拒否されました」メッセージが表示される
- **Symantec Endpoint Protection** が実行されている場合は **Discovery Accelerator** カスタマーデータベースを作成またはアップグレードできない
- **UAC** が有効なコンピュータから **Discovery Accelerator** クライアントをアンインストールする場合に権限エラーが発生する
- **Discovery Accelerator** クライアントを共有の場所からアンインストールした場合に他のユーザーがクライアントを起動できないことがある

Discovery Accelerator 12.3 にアップグレードするときにイベントログにエラーメッセージが表示される

以前のバージョンの **Discovery Accelerator** から **Discovery Accelerator 12.3** にアップグレードすると、イベントログに次のメッセージが表示される場合があります。

Event Type: Error

Event Source: Accelerator Service Processor

Event Category: None

Event ID: 130

Description:

APP AS - Customer ID: 0 - An error has occurred when initializing

```
the Customers. System.Data.SqlClient.SqlException: Procedure or
function spConf_Customer_Sel has too many arguments specified.
```

また、次のように表示される場合もあります。

```
Event Type: Error
Event Source: Accelerator Service Processor
Event Category: None
Event ID: 149
Description:
APP AS - Customer ID: 0 - An error has occurred when initializing
the Servers. System.Data.SqlClient.SqlException: Procedure or
function spConf_Server_Sel has too many arguments specified.
```

これらのメッセージは無視しても問題ありません。

Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスが作成されない

インストールプログラムが Discovery Accelerator サーバーに Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを作成できない場合は、サービスを手動で作成する必要があります。

Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを手動で作成する方法

- 1 Windows エクスプローラで、.NET Framework をインストールしたフォルダから InstallUtil.exe ファイルを検索します。
- 2 コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 3 InstallUtil.exe を含むフォルダに移動します。
- 4 次のコマンドを実行します。

```
InstallUtil "InstallFolder¥AcceleratorManager.exe"
```

ここで、*InstallFolder* は Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールしたフォルダのパスです。

- 5 コマンドの実行に失敗し、InstallUtil.exe のコピーが複数存在する場合は、他のコピーでも同じコマンドを試します。
- 6 それでもサービスの作成に失敗する場合は、.NET Framework を再インストールし、新たにインストールされた InstallUtil.exe のコピーを使って、もう一度コマンドを入力します。

Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスが起動しない

Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを起動できない場合は、WMI (Windows Management Instrumentation) サービスの状態をチェックします。WMI サービスが停止している場合は、このサービスを起動してから Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを起動します。

UAC が有効なコンピュータで顧客データベースを作成しようとするときに「アクセスが拒否されました」メッセージが表示される

ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効なコンピュータで顧客データベースを作成するときに、次のエラーメッセージが Accelerator マネージャ Web サイトに表示されます。

Virtual Directory Error: Access is denied

Accelerator マネージャ Web サイトを管理権限を持つユーザーとして開くことによってこの問題を回避できます。

Accelerator マネージャ Web サイトを管理者として開きます。

- 1 Windows のスタートメニューでご使用のブラウザのショートカットを右クリックしてから、コンテキストメニューで「管理者として実行」をクリックします。
- 2 使用する管理者アカウントの詳細を入力し、[OK] をクリックします。
- 3 [アドレス]バーで、Accelerator マネージャ Web サイトのアドレスを入力します。

Symantec Endpoint Protection が実行されている場合は Discovery Accelerator カスタマーデータベースを作成またはアップグレードできない

Symantec Endpoint Protection が Discovery Accelerator サーバーで実行されている場合は、カスタマーデータベースの作成または既存のカスタマーデータベースのアップグレードを実行できないことがあります。これらの操作を実行する間は、Endpoint Protection をシャットダウンすることを推奨します。

集中管理された Endpoint Protection 環境で Discovery Accelerator サーバーが実行されている場合は、この問題の原因となる侵入防止チェックを単に無効にします。これにより Discovery Accelerator サーバーと同じグループにあるすべてのサーバー上で侵入

防止チェックが無効になりますが、**Endpoint Protection** を完全にシャットダウンする必要がなくなります。

Endpoint Protection の侵入防止チェックを無効にする方法

- 1 **Endpoint Protection Manager** コンソールが実行されているコンピュータにログオンします。
- 2 **Endpoint Protection Manager Console** を開きます。
- 3 [ポリシー]をクリックします。
- 4 [ポリシーの表示]で、[侵入防止]をクリックします。
- 5 右ペインで、侵入防止ポリシーを右クリックし、[編集]をクリックします。
- 6 [例外]をクリックします。
- 7 [追加]をクリックします。
- 8 一覧で署名[ID 20079]を選択し、[次へ]をクリックします。
- 9 [処理]を[許可する]に、[ログ]をいずれかのオプションに設定して、[OK]をクリックします。
- 10 [OK]をクリックします。
- 11 **Endpoint Protection** がポリシーをグループ内のサーバーにロールアウトするまでしばらく待ちます。

UAC が有効なコンピュータから **Discovery Accelerator** クライアントをアンインストールする場合に権限エラーが発生する

次の条件がいずれも該当する場合、ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしているコンピュータから **Discovery Accelerator** クライアントをアンインストールしようとすると、[このアプリケーションを削除するには管理者権限が必要です]というメッセージが表示されます。

- MSI インストーラパッケージ **Veritas Enterprise Vault Discovery Accelerator Client.msi** を使ってクライアントのマシン単位のインストールを実行した。
ユーザー単位の **MSI** インストールをアンインストールする場合にはこの問題は発生しません。
- MSI インストーラパッケージを右クリックし、コンテキストメニューで[アンインストール]をクリックして、クライアントをアンインストールしようとした。[コントロールパネル]の[プログラムの追加と削除]アプレットを通してクライアントをアンインストールする場合、この問題は発生しません。

Discovery Accelerator クライアントを共有の場所からアンインストールした場合に他のユーザーがクライアントを起動できないことがある

これらの環境で **Discovery Accelerator** クライアントをアンインストールする方法

- 1 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 2 次のコマンドを入力します。

```
msiexec /x "path_to/Veritas Enterprise Vault Discovery Accelerator  
Client.msi" /qb!
```

/x パラメータによってクライアントがアンインストールされ、/qb! パラメータによってアンインストール処理で基本ユーザーインターフェースが表示されます。

Discovery Accelerator クライアントを共有の場所からアンインストールした場合に他のユーザーがクライアントを起動できないことがある

他のユーザーがクライアントをインストールした同じ共有の場所からユーザーが **Discovery Accelerator** クライアントをアンインストールすると、他のユーザーはクライアントを起動できなくなることがあります。ただし、他のユーザーは、**Discovery Accelerator** クライアントを修復インストールすることによって、この問題を簡単に解決することができます。

Discovery Accelerator クライアントの修復インストールを実行する方法

- 1 修復インストールを実行する各コンピュータで、コントロールパネルを開きます。
- 2 [プログラムの追加と削除]アプレットをダブルクリックします。
- 3 インストール済みプログラムの一覧で、[Veritas Enterprise Vault Discovery Accelerator Client]を見つけてクリックします。
- 4 [サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください。]ハイパーリンクをクリックします。
- 5 [修復]をクリックし、画面に表示される指示に従います。